

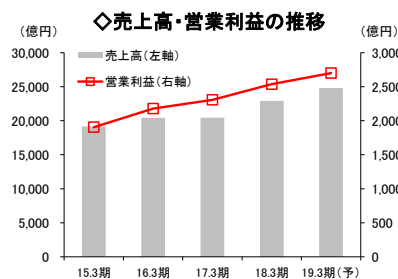
企業ニュース **ダイキン工業**

(東証1部：6367) <https://www.daikin.co.jp>

作成者：村上大志

空調市場のリーディングカンパニー

1924年創業。空調事業でグローバルNo.1企業。住宅やオフィスなどの身近な生活空間から、工場や空港といった大空間、病院や厨房のような特殊空間に至るまで、全世界のあらゆる風土に合ったニーズに応じている。1933年に日本で初めてフッ素化学に取り組んで以来続く化学事業では、フッ素樹脂やゴム、ガスなど1,800種類以上のフッ素化合物を世界に送り出し、省エネ・省資源に貢献している。グローバル展開を加速しており、事業展開する国は150カ国以上、18.3期の海外売上高比率は76%。また、市場ニーズがある場所で生産するという「市場最寄化生産戦略」をとり、生産拠点は世界90カ国以上ある。18.3期の事業別別売上高構成比は空調・冷凍機90%、化学8%、その他2%。



(出所)ダイキン工業資料よりCAM作成

増益基調が継続

19.3期・第3四半期累計(4-12月)の連結業績は売上高が1兆8,752億円、前年同期比9%増、営業利益が2,138億円、同6%増。空調・冷凍機事業の売上高は1兆6,872億円、同8%増、営業利益1,854億円、同3%増。中国で伸び悩んだが、日本、米州、欧州で販売を拡大しカバーした。化学事業の売上高は1,494億円、同14%増、営業利益247億円、同39%増。半導体や自動車向けに拡販に成功したことや、売価アップやコストダウンが奏功し大幅な増益を達成した。全体の営業利益率は11.4%、同0.3ポイント減。固定費の増加や原材料費の上昇などが影響した。

19.3期の通期会社計画は売上高が2兆4,800億円、前期比8%増、営業利益が2,700億円、同6%増。米中貿易摩擦に伴う世界経済の減速や中国の需要鈍化など事業環境が厳しい中、高付加価値商品の拡販、売価施策の徹底やコストダウンが奏功している。中国では内陸部への販路開拓に加え、新たにエアコンのネット販売を開始した。中国のエアコン市場におけるネット販売比率は40%に達している模様で、今後の同社シェア拡大が期待される。

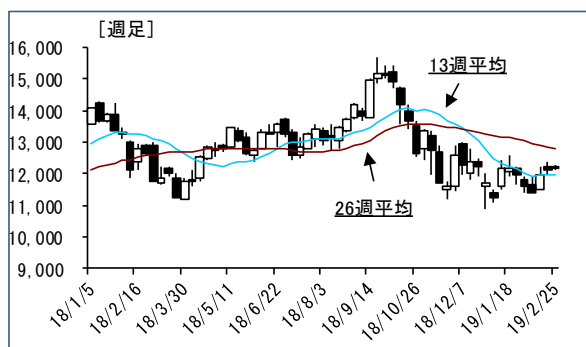
[株価動向・投資判断]

M&Aを交えた中長期での事業の成長性や、コストコントロールがうまく収益性を向上させている点を評価したい。

<6367 ダイキン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	2,043,968 (0)	230,769 (6)	231,013 (10)	153,938 (12)	526.8	130.00
18.3	2,290,560 (12)	253,739 (10)	255,019 (10)	189,051 (23)	646.5	140.00
19.3 予	2,480,000 (8)	270,000 (6)	268,000 (5)	180,000 (▲5)	615.4	140.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/2/25)	12,200 円
昨年来高値(高値日)	15,670 円(18/9/19)
同 安値(安値日)	10,900 円(18/12/26)
予想 P E R (19.3 予)	19.8 倍
1株株主資本(PBR算出用)	4,672.3 円
P B R	2.61 倍
予想配当利回り	1.15 %
(1株当たり配当金140.00円)	
R O E (18.3)	15.7 %
発行済み株式数	29,311 万株